

医師各位
看護師各位

薬事審議委員会委員長 野間 文次郎

薬事審議委員会(平成 26 年 12 月 19 日)の結果をお知らせいたします。

【新規採用医薬品】(正式採用医薬品)

採用薬品名	薬効	備考
ベルソムラ錠 15mg・20mg	オレキシン受容体拮抗剤 (不眠症治療薬)	外科申請
アイミクス配合錠 HD	長時間作用型 ARB/持続性 Ca 拮抗薬配合剤	循環器科申請
フルティフォーム125エアゾール	喘息治療配合剤(ステロイド+長時間作用型β刺激薬配合剤)	呼吸器内科申請
レボフロキサシン錠100mg「ファイザー」	ニューキノロン系抗菌薬	呼吸器内科申請 (減量使用する患者用)
ネオキシテープ73.5mg	経皮吸収型 過活動膀胱治療剤	泌尿器科申請
グラナテック点眼液 0.4%	Rho キナーゼ阻害 緑内障・高眼圧治療薬	眼科申請
レルベア 200 エリプタ	ICS/LABA 配合剤	呼吸器内科申請
ジーラスタ皮下注 3.6mg	ペグ化 G-CSF	がん化学療法委員会からの要望
*メモリーOD錠 5mg・20mg	アルツハイマー型認知症治療薬	服薬しやすくするため、普通錠→OD錠へ変更
*トラマール OD錠 25mg・50mg	がん疼痛・慢性疼痛治療剤	服薬しやすくするため、普通錠→OD錠へ変更及び、50mg錠の規格追加

★ 尚、オーダー可能日につきましては、1月5日以降となります。

また、剤型変更の *メモリーOD錠、 *トラマールOD錠につきましては当院在庫が無くなり次第の切り替えとなります。

(保険薬局さまにおかれましては現在採用の普通錠が患者さまの服用に問題が無く、患者同意があれば、御社開封済み在庫が無くなるまでの期間は普通錠への変更も可と致します)

【採用後発医薬品および採用中止の先発医薬品】

採用薬品名(後発医薬品)	薬効	採用中止医薬品(先発医薬品)
レボフロキサシン錠 500mg 「DSEP」	広範囲経口抗菌製剤	クラビット錠500mgを採用中止

- ★ 尚、後発薬品切り替え時期につきましては、院外処方 は 1 月 5 日以降、院内処方(入院中を含む)は院内在庫がなくなり次第行ないますので、その都度お知らせいたします。

【採用中止医薬品】

採用薬品名	薬効	備考 (採用中止日)
フルツロンカプセル200	抗悪性腫瘍剤	適応患者がない為 (12月25日)
エコリシン点眼液	エリスロマイシン・コリスチン点眼剤	適応患者がない為 (12月25日)
タケプロンOD錠 15mg	プロトンポンプインヒビター	同時採用薬であるランソプラゾールOD錠15mg「サワイ」の適応症が同一になったため (12月26日)
アドエア100ディスクス60吸入用	喘息・COPD 治療配合剤,喘息治療配合剤	使用実績が少ない為、(他剤で代用可) (12月26日)

お問い合わせにつきましては 薬局長 日浦(☎7162) へお願い致します。

【お知らせ1】

ニフェジピンCR錠 20mg およびスクラルファート内服液につきましては1月5日より、院外処方で先発・後発両方オーダできるように致しますのでよろしくお願いたします。

理由

①ニフェジピンCR錠 20mg については徐放システムの違いでメーカーにより、溶出挙動にばらつきがある事は広く知られております。このため、降圧効果が一定していない製品があり、血圧コントロールが難しくなったとの医師からのクレームがありました。

よって、院外処方についてはニフェジピンCR錠 20mg「トーワ」とアダラートCR錠 20mg(先発)の両方がオーダできるように致します。

②スクラルファート内服液「日医工」は、開封がツイストオフ(ねじ切り開栓)となっており、握力がない方で開封が困難であったり、矯味剤(味)の違いにより内服困難な患者さまが多数いるとのことで、本剤も院外処方についてはスクラルファート内服液「日医工」とアルサルミン内服液(先発)の両方がオーダできるように致します。

【お知らせ2】

院外処方せん発行マニュアルを改訂いたしました。 詳細につきましては『院外処方箋発行マニュアル 第2版』をご参照ください。(赤字部分)

主な改訂点

医療安全および調剤過誤防止の観点より、規格違いの薬剤変更はしないよう保険薬局さまにお願いしておりましたが、全病棟の持参薬検薬体制(自院処方分を含む)が整いましたので、院外処方でも可能といたしました。(関係各委員会で承認済み)

例) フェブリク錠 20mg 0.5錠/1×朝 ⇒ フェブリク錠 10mg 1錠/1×朝 の変更調剤OKです

ご注意: 規格が違って形状・大きさ・厚み・色調が全く同一の製品が存在致します。一包化等でバラ錠を取り扱うときには充填間違いがないようご注意ください。《保険薬局さま》

(フェブリク錠 10mg・20mg、ワンアルファ 0.25 μ g・0.5 μ g・1 μ g…等)

入院患者の自院処方の持ち込み薬の検薬は、オーダ履歴ではなく、現品にて検薬してください。《院内》

【お知らせ3】

ファンギゾンうがい液の院外処方中止に致します（ファンギゾンの保険適応が内服のため）
今後、院外処方は内服薬として原液での処方をお願い致します

例） フェンギゾンシロップ 1.5mL /3×朝昼夕食後
（口の中に含み患部に広くゆきわたらせ、できるだけ長く含んだ後、飲み込む）

処方される先生は使用法について患者さまに説明をお願いいたします